

本当に大丈夫？ 生駒市の給食

六月の集団食中毒、十月の異物混入と、生駒市で学校給食の事故が相次いだ。市教委は二日、異物は耐熱ガラスではなく軟質ガラスと訂正、混入経路や原因は解明できないとする最終報告を発表。記者会見で市は「児童・生徒や保護者の信頼回復に努めたい」と繰り返し返すばかりで、具体的な改善策は講じておらず、「給食の事故が再び起きないか心配だ」という市民の不信感はぬぐえそうにない。

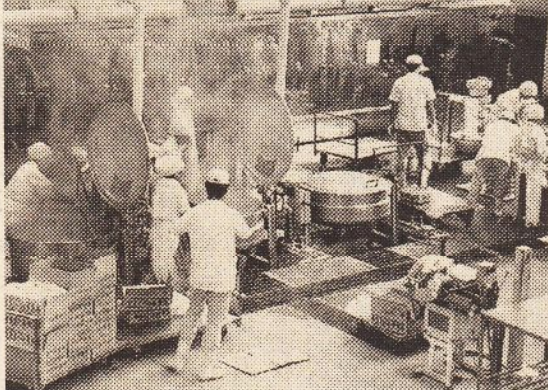
(中村 幸和)

具体的改善策はなし

●原因特定できず

市教委は、常識では考えられない異物混入の原因について、「業者に事情を聴いたが、調査には限界もあり、突き止められなかった」と発表。さらに、異物は一般にコップやびんなどに使われる軟質ガラスで、通常は体外に排出されて健康には影響はないと説明した。今後の対策について、高橋紀・学校給食センター所長は「私も注意喚起している。ただ、目に見えるような改善策はとっていない。十一月に移ってきたばかりで、以前のごとはわからない」。

2度の事故を起こした生駒市立学校給食センター



市は今回の二つの事件の

「再発は防止できるか」との質問にも「一層の安全管理に努めるしかない」と答えるにとどまった。

●異動で「出世」

関係者に厳重注意などの処分をしているが、その後の人事異動で、当事者の一部職員が昇格している。集団食中毒直後の七月の人事異動では、当時の教育総務部長と学校教育課長が昇格。

さらに十一月の異動では、学校給食センター所長(課長級)が本庁の課長に横滑り。二度の事故の責任をとらせたつもりが、「出先機関から本庁に帰るのは出世みたいなもの。これでは職員の間で

も失せてしまう」(中堅職員)とのぐちも出る。

●閉ざされた市政

六月の集団食中毒の際は、この問題を数度、市議会全員協議会で論議した。今回も全員協議会で経過報告。問題は全員協議会が市民はおろか、記者にも非公開という点だ。さらに全員協議会や記者会見で詳細な資料提出を再三求められても、市教委幹部は「前例がなくてできない。新聞が騒い

で、市民の不安をかき立てている」と答えるほど。市は経過を広報紙に載せる予定もなく、市民から「真の解決には程遠い」という声が相次ぐのもうなずける。